記者発表資料

令和８年３月１２日
能代河川国道事務所

E７秋田自動車道
きみまち阪(ざか)IC～北秋田今泉(きたあきたいまいずみ)IC 間 4.5km
開通前現場見学会の開催

○令和８年３月 20 日(金)に開通する秋田自動車道　きみまち阪 IC～北秋田今泉 IC 間 4.5km について、報道機関を対象とした現場見学会を開催します。

１．日　時

令和８年３月１７日（火）　１０：００～１１：００（予定）

２．見学箇所

E７秋田自動車道 きみまち阪 IC　～　北秋田今泉 IC　間

３．集合場所

きみまち阪ＩＣ（下り線ＯＮランプから進入して本線との合流地点）



拡大図



４．申込み

取材を希望される報道機関は、別紙「取材申込書」に必要事項を記入の上 FAX での送付または、必要事項をメールで送付して下さい。

＜発表記者会：秋田県政記者会、能代市記者クラブ、北秋田市記者クラブ、大館市記者クラブ＞

問い合わせ先
国土交通省 東北地方整備局 能代河川国道事務所
電話 ： ０１８５－７０－１００１
副所長（道路担当）　大久保(おおくぼ)　広(ひろい)　（内線２０５）
調　査　課　長　舘山(たてやま)　幸大(ゆきひろ)　（内線４５１）

報道機関の方へ

（別紙）

「E7 秋田自動車道　きみまち阪 IC～北秋田今泉 IC 間
開通前現場見学会（令和８年３月１７日（火））」
取材申込書

取材を希望される報道機関は、以下の必要事項を記入の上 FAX での送付または、必要事項をメールで送付してください。

【メール又は FAX 送付期限：３月１６日(月)　１４時】

1．会　　社　　名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2．ご　　氏　　名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
（代表者のみ）

3．連　　絡　　先　TEL ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Mail ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

4．人　　数　（代表者含む）　　名

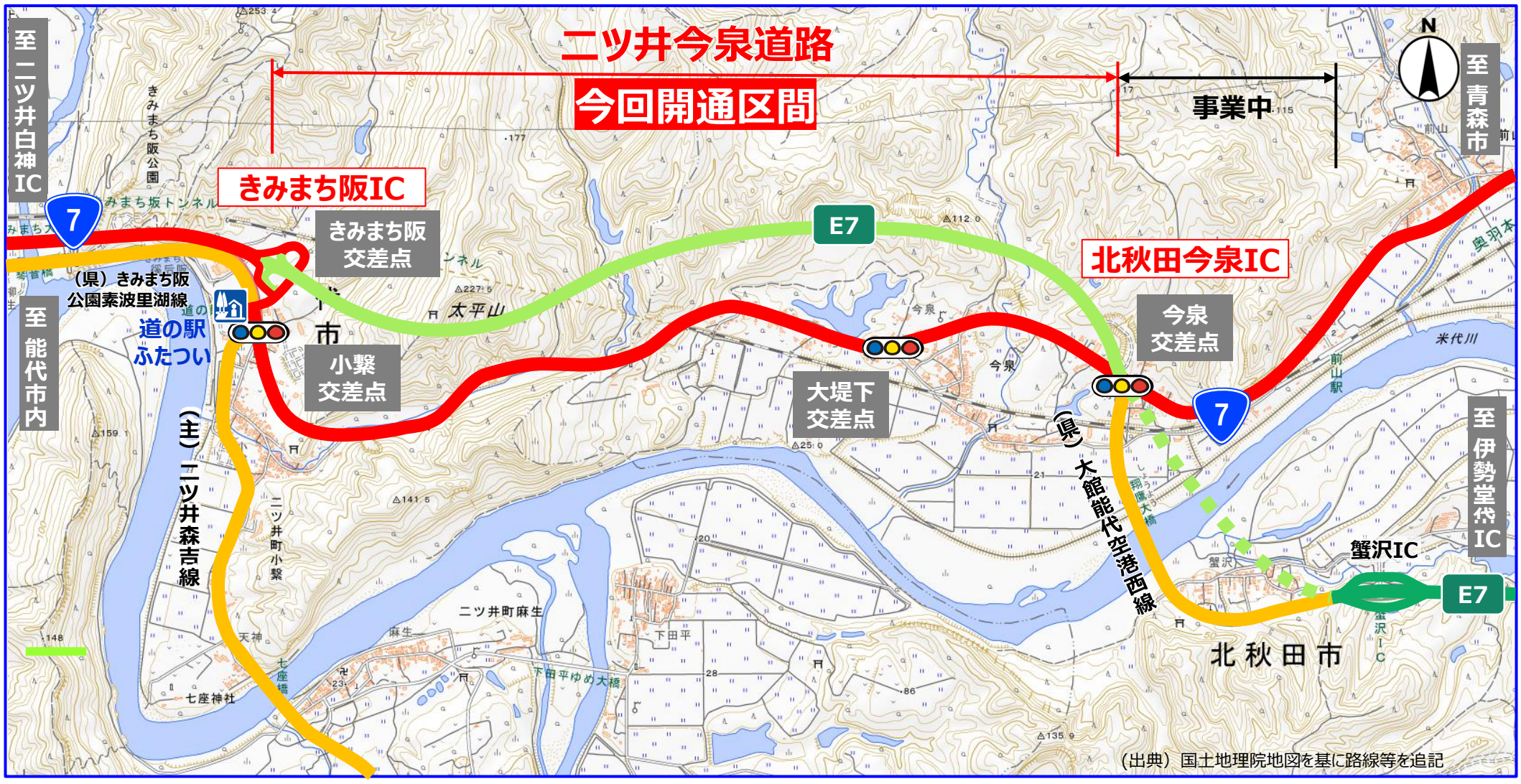
5．車両台数　　台

※こちらから連絡をさせていただく場合がありますので、連絡の取れる電話番号をご記入ください。

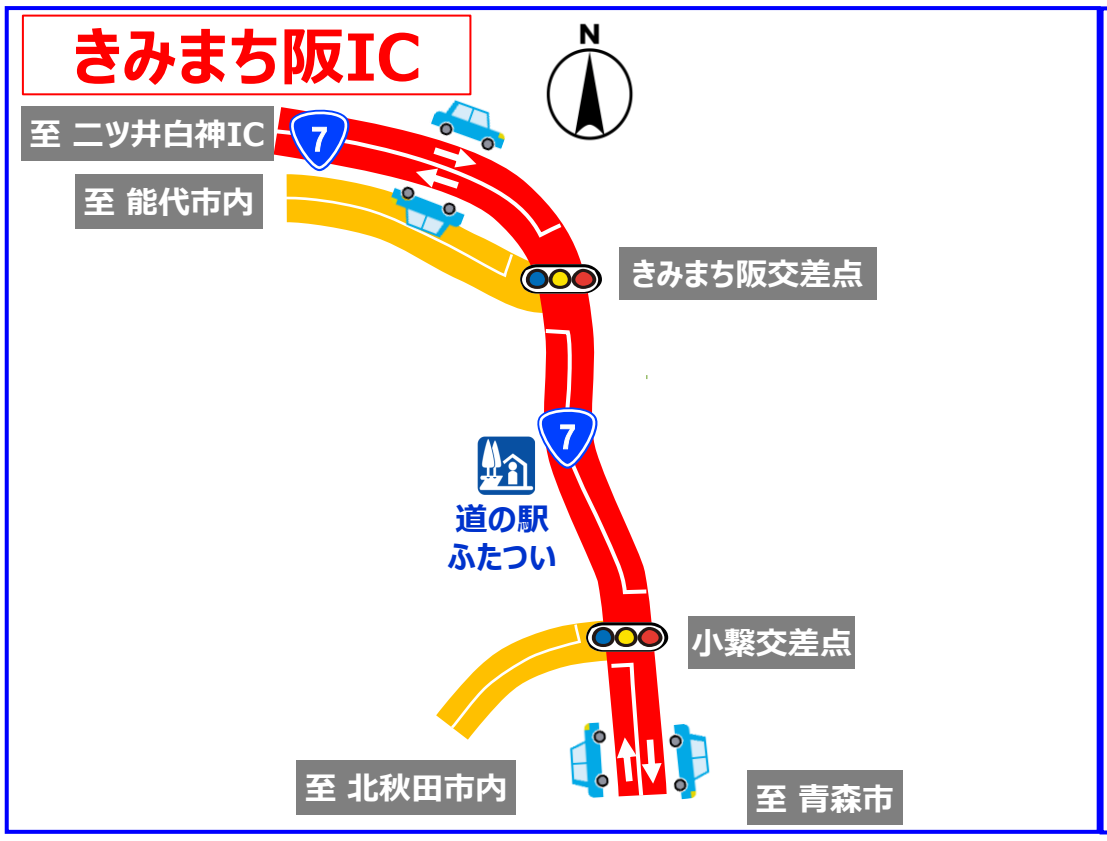
＜送付先＞

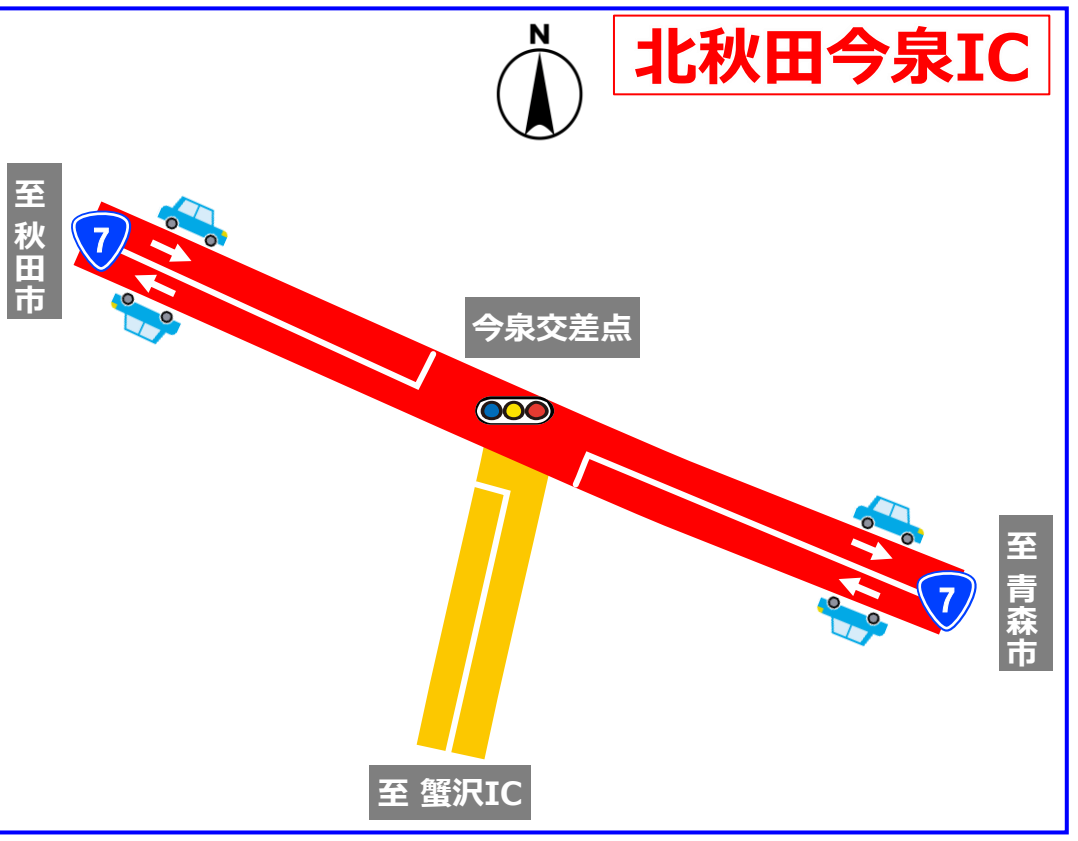
東北地方整備局　能代河川国道事務所　調査課　　行き
Ｍａｉｌ　thr-753chousa@ki.mlit.go.jp
ＦＡＸ　　０１８５－７０－１１４１

E7 「二ツ井今泉道路」が開通いたします！

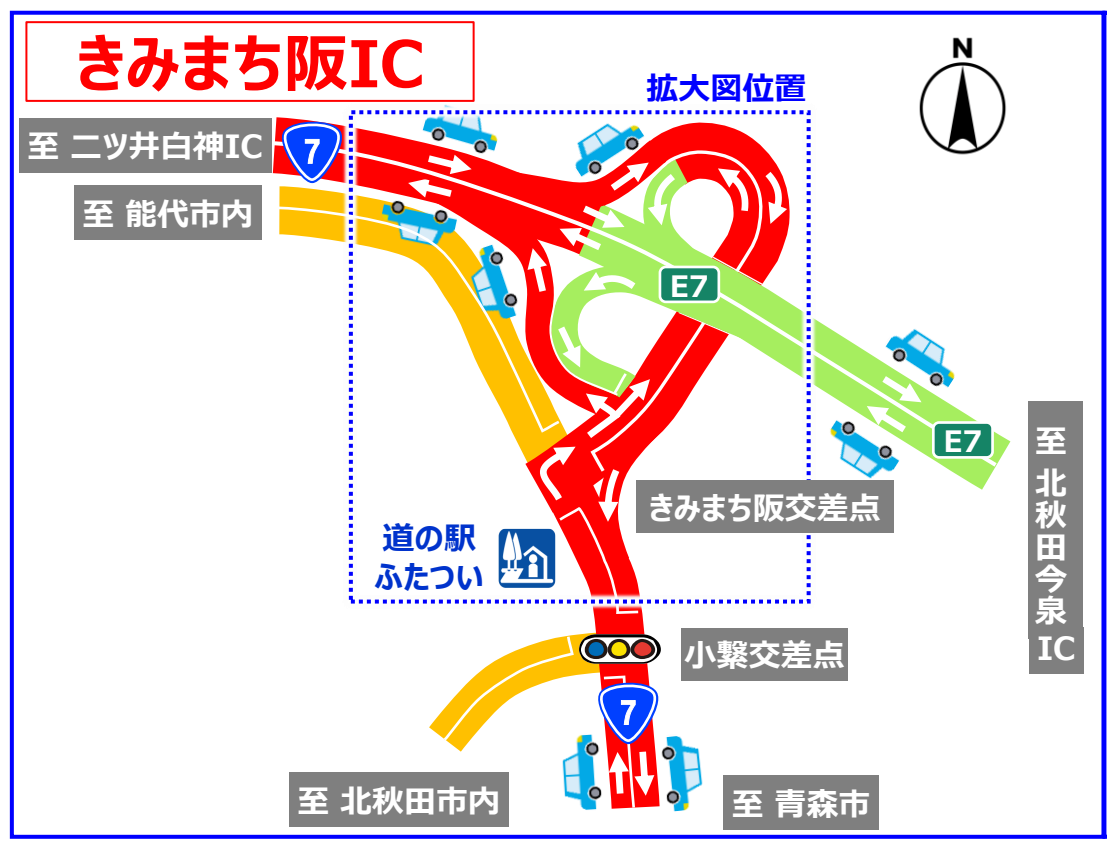


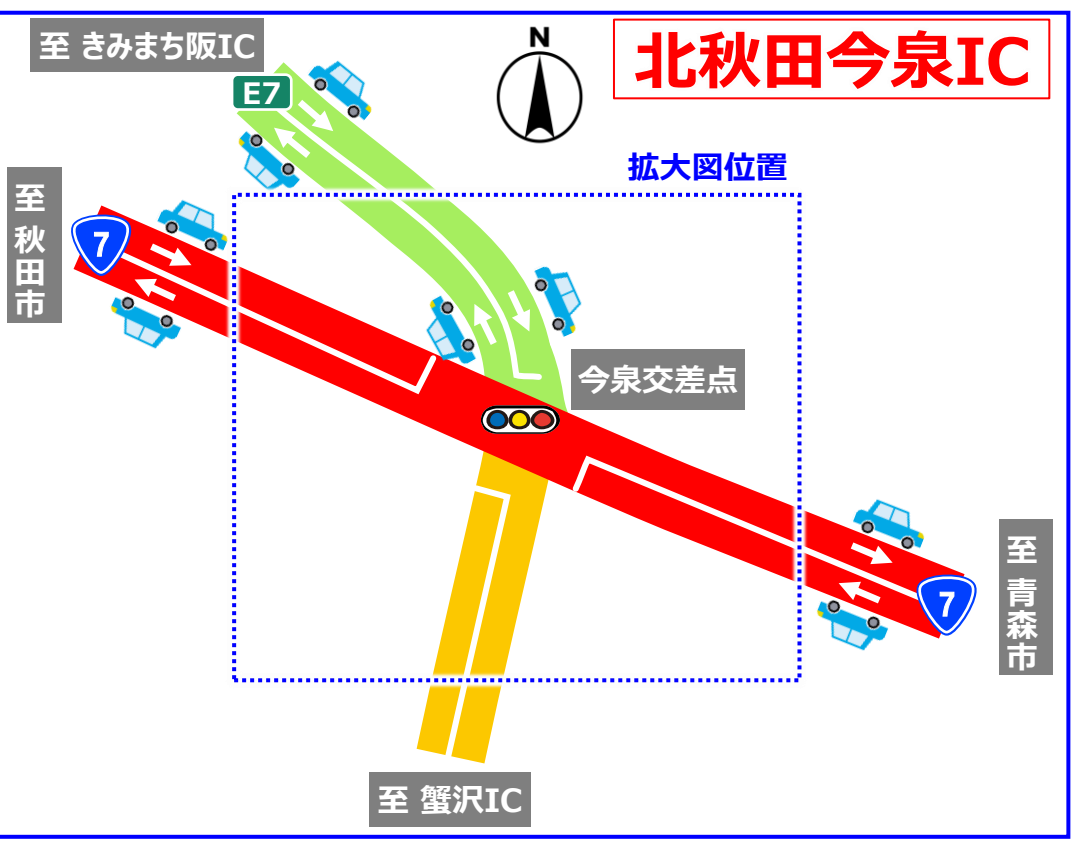
開通前の利用方法



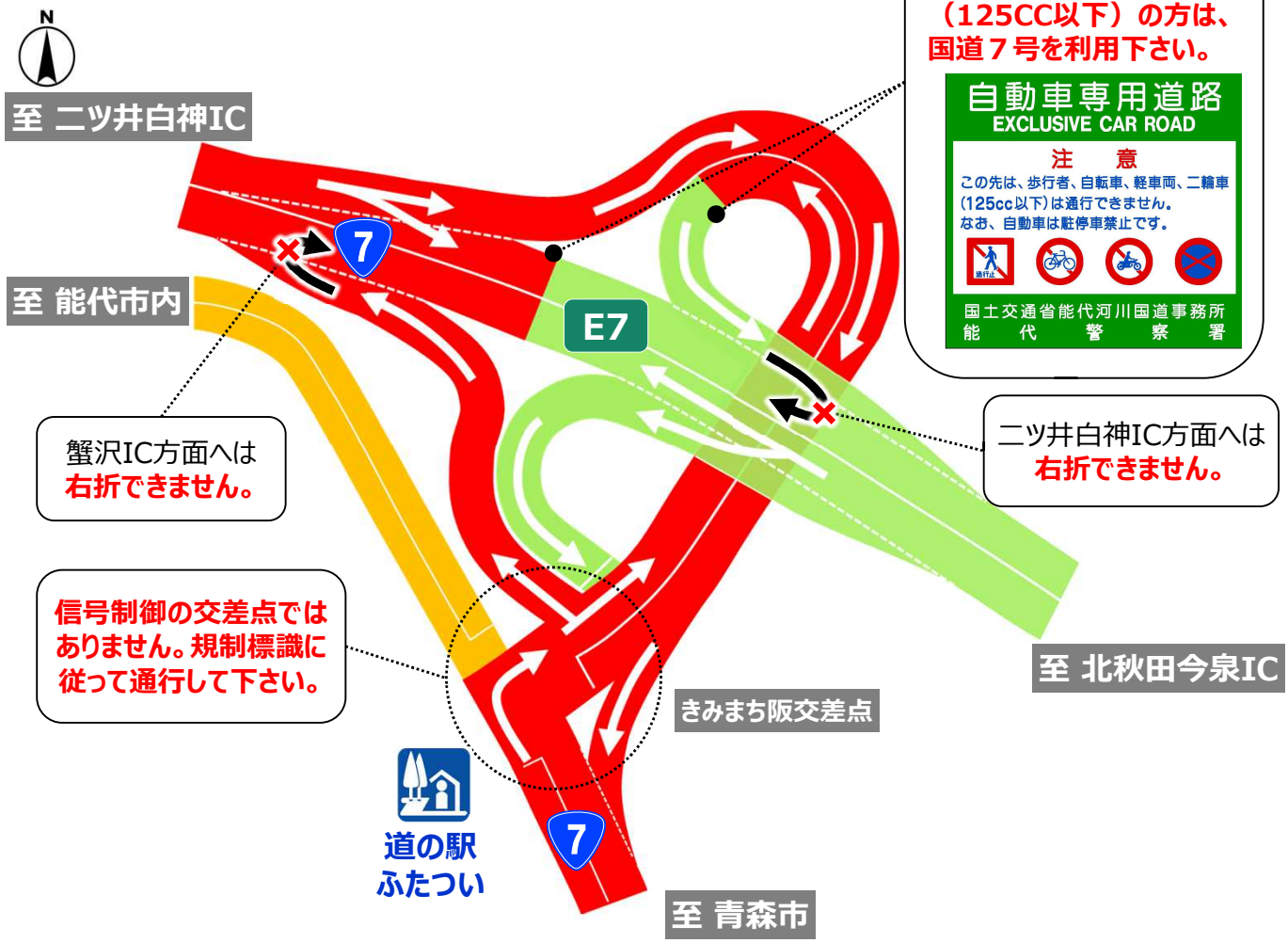


開通後の利用方法

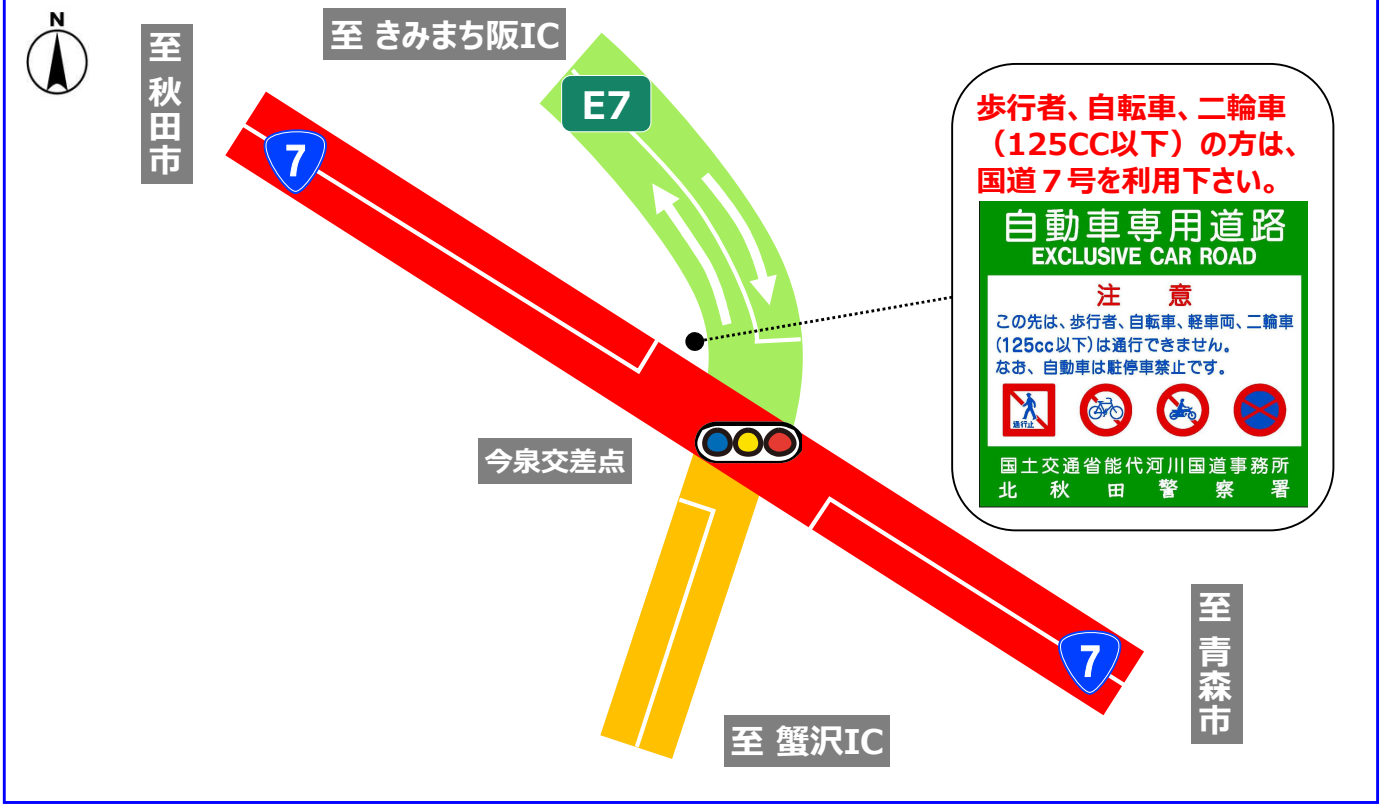




きみまち阪IC側拡大図



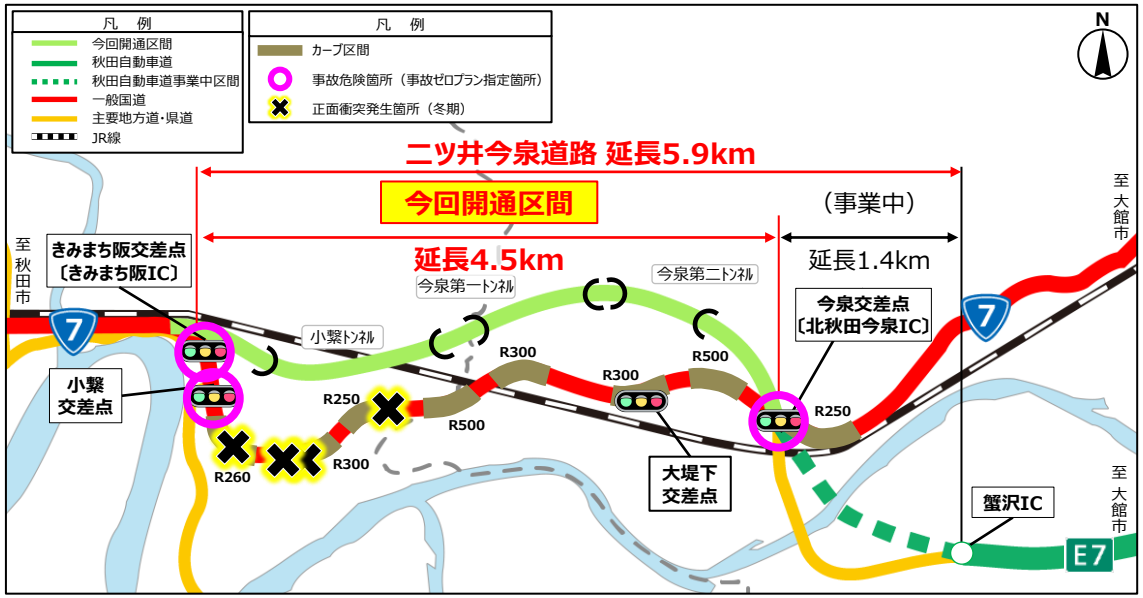
北秋田今泉IC側拡大図



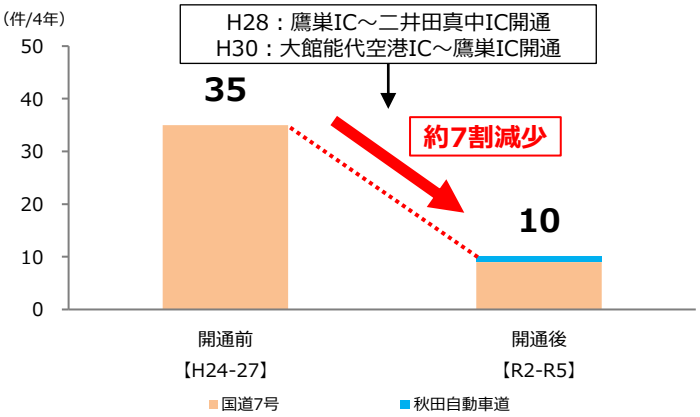
安全な交通環境を確保

・二ツ井今泉道路の現道区間には事故危険箇所が３箇所あり、通常期は交差点部での追突、冬期はカーブ区間での正面衝突が多く発生。冬期は積雪・凍結路面での事故が多く、死傷事故率は通常期に比べ約3割増加。
・平成28・30年開通区間および並行する国道7号では、開通前後で事故件数が約7割減少。
・今回の開通により、交差点部・カーブ区間、積雪・凍結路面での事故リスクが軽減し、安全な交通環境を確保。

▼二ツ井今泉道路・現道区間における冬期の正面衝突発生状況

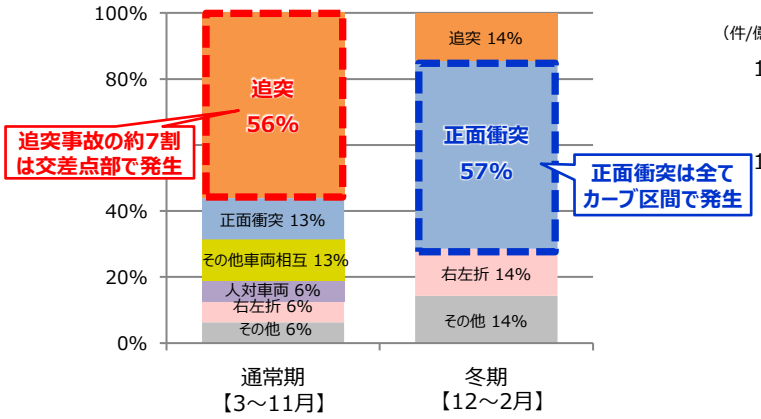


▼H28・30開通区間の開通前後における国道7号・秋田自動車道の事故件数の変化

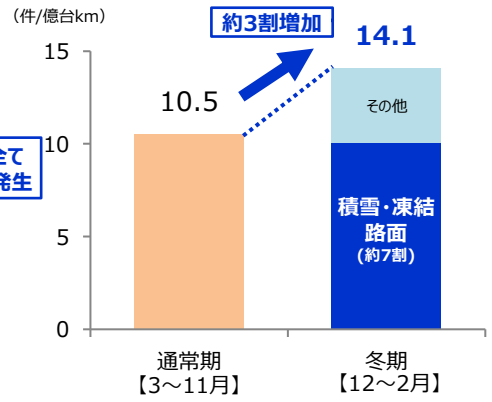


資料：イタルダデータ
※秋田自動車道・H28・30開通区間(大館能代空港IC～二井田真中IC)と並行する国道7号現道(綴子交差点～川口交差点)を対象に集計。

▼現道区間における事故類型の比較

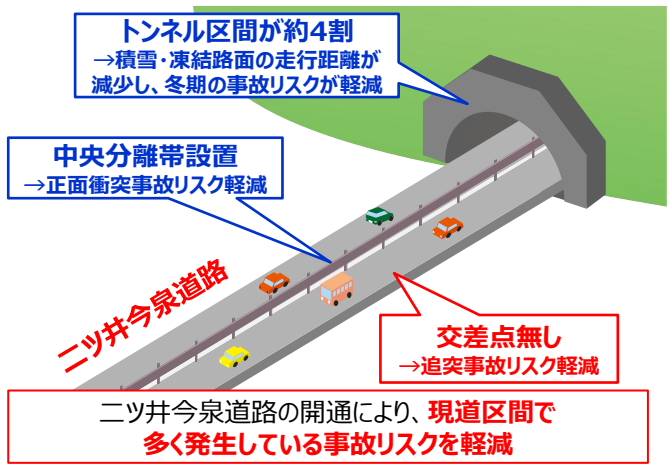


▼現道区間における死傷事故率の比較



資料(正面衝突発生箇所・事故類型・死傷事故率)：イタルダデータ（H25-R5）
※きみまち阪交差点(きみまち阪IC)～蟹沢IC間の現道を対象に集計。
※事故類型は小数点以下２桁目を四捨五入して表示しているため、合計が100%にならない場合がある。

▼二ツ井今泉道路開通による事故リスク軽減イメージ

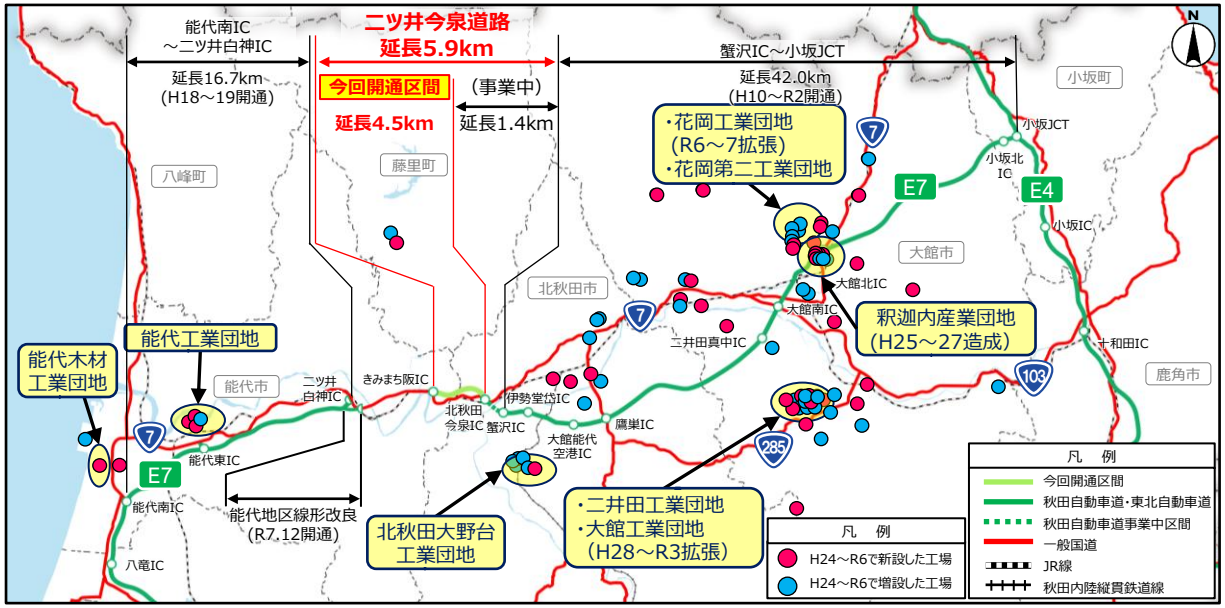


二ツ井今泉道路の開通により、**現道区間で多く発生している事故リスクを軽減**

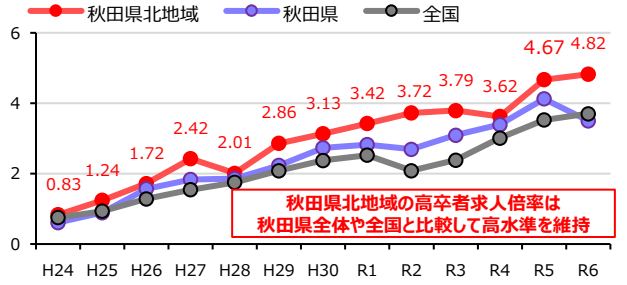
企業立地・新規雇用を支援

・秋田県北地域では、秋田自動車道の開通に伴い、企業の新設・増設が進み、多くの新規雇用者数を創出しており、高卒者求人倍率は高水準を維持。
・秋田自動車道利用企業の約9割がこれまでの開通による効果を実感。うち約6割が通勤利便性の向上・改善効果を実感。
・今回の開通により、県北地域への企業立地や新規雇用を支援。

▼秋田自動車道沿線の工業団地・新設・増設工場の分布

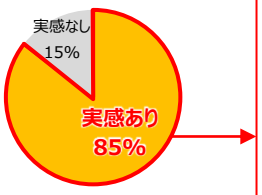


▼高卒者求人倍率の推移



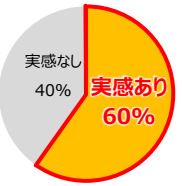
資料：秋田県労働局、厚生労働省
※各年7月時点の求人倍率

▼これまでの秋田自動車道開通による効果の実感度



(N＝96)

▼通勤利便性の向上・改善の効果の実感度

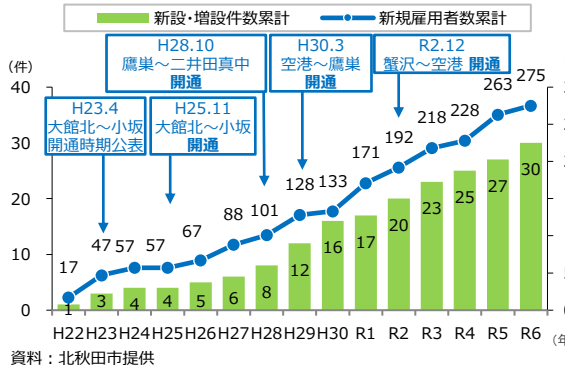


(N＝82)

資料：道路利用に関するアンケート調査結果（R5.8-9）
※対象企業の条件は以下のとおり。
・業種：農林水産業、製造業、卸売業、小売業、運輸業　・従業員数：10名以上
・対象市町村：八峰町、能代市、上小阿仁村、三種町、藤里町、北秋田市、大館市、鹿角市、小坂町

▼北秋田市の新設・増設件数と新規雇用者数の推移

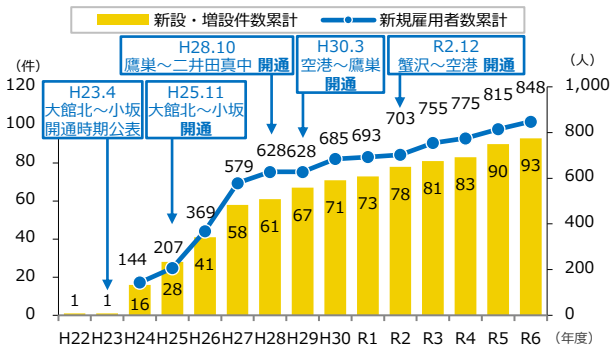
30工場が新増設 275名の雇用創出
延べ92億円の投資（H22～R6）



資料：北秋田市提供
※工場新設・増設数はH22からの累計値 ※新規雇用者数は正規雇用者数のみ

▼大館市の新設増設件数と新規雇用者数の推移

93工場が新増設 848名の雇用創出
延べ1,232億の投資（H24～R6）



資料：大館市提供
※工場新設・増設数はH22からの累計値 ※新規雇用者数はパート含みの雇用者数

《大館市内企業の声》

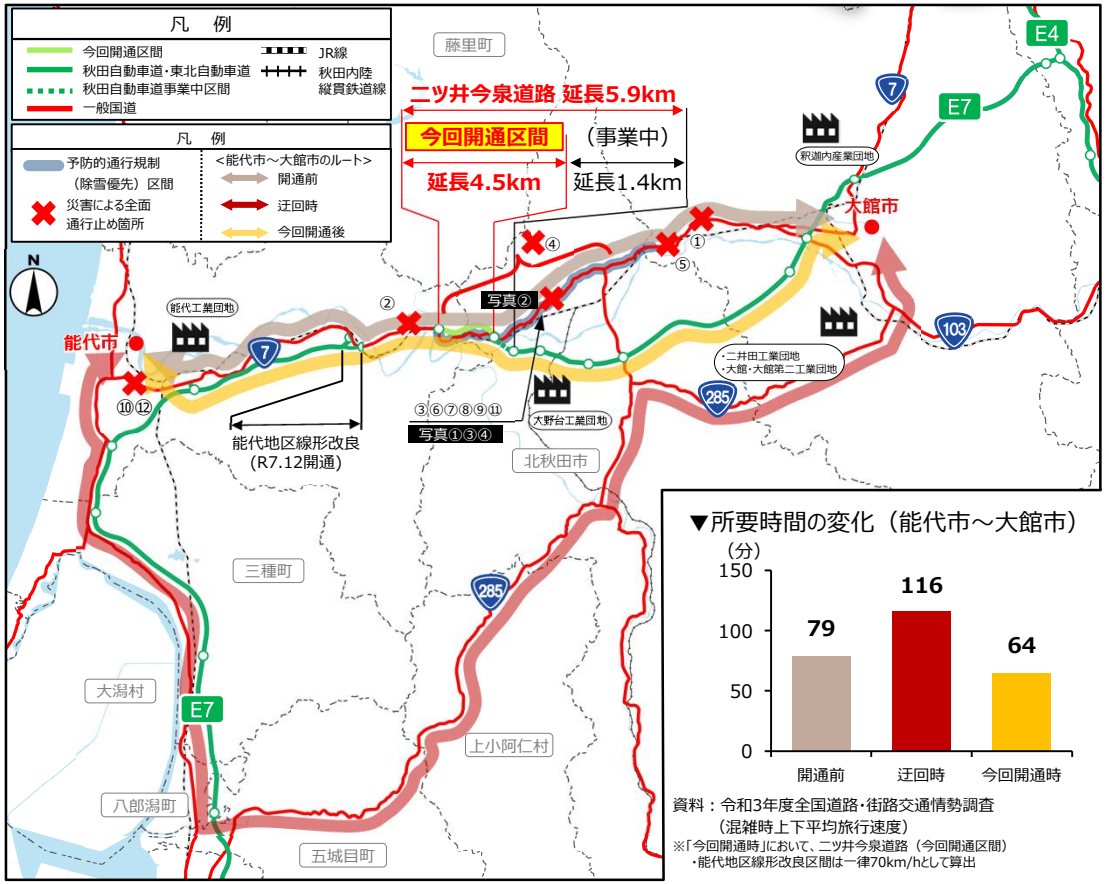
■ 秋田自動車道の開通により、北秋田市からの通勤の利便性向上のほか、能代市から通勤が可能と、新卒採用の応募や工場見学も増えている。開通により、通勤圏の拡大や利便性向上に繋がると期待している。（R1.12、R3.8 ヒアリング結果）

■ 雇用を確保する上で、道路ネットワークの整備により、秋田市からの通勤、人口流出を抑えられるなど、地域のメリットとなる。（R6.1 ヒアリング結果）

災害時における代替性を確保

・国道7号(能代市～大館市)は、第1次緊急輸送道路に指定されているが、過去20年で災害による全面通行止めが12件発生しており、令和7年9月においても豪雨による全面通行止めが発生。
・二ツ井今泉道路の現道や秋田自動車道の未開通区間には迂回路がなく、国道7号の通行止め時に広域迂回が発生。
・今回の開通により、現道区間の災害時における代替性を確保。

▼国道７号の全面通行止め箇所および迂回ルート（能代市～大館市）



▼所要時間の変化（能代市～大館市）

資料：令和3年度全国道路・街路交通情勢調査
（混雑時上下平均旅行速度）
※「今回開通時」において、二ツ井今泉道路（今回開通区間）
・能代地区線形改良区間は一律70km/hとして算出

▼国道7号（能代市～大館市間）の災害による全面通行止め履歴

No.	発生年月日	規制要因
①	H19.9.18	降雨による河川水位上昇
②	H21.7.19	大雨による二ツ井東トンネルの漏水
③	H23.8.17	大雨による土砂流入
④	H24.1.30	予防的通行規制による除雪、大雪によるスタック発生
⑤	H25.8.9	局地的大雨による河川水位上昇
⑥	H25.9.16	台風18号による冠水
⑦	R4.8.3	大雨による冠水
⑧	R4.8.10	大雨による冠水
⑨	R5.7.15	大雨による路面冠水
⑩	R5.7.16	大雨による路面冠水
⑪	R7.9.2	大雨による路面冠水
⑫	R7.9.2	大雨による路面冠水



H23.8　大雨による土砂流入
（北秋田市綴子（つづれこ）地区）



H24.1　大雪によるスタック発生状況
（北秋田市坊沢（ぼうさわ）地区）





R4.8(写真③)、R7.9(写真④)　大雨による冠水状況（北秋田市綴子（つづれこ）地区）

《消防・周辺企業の声》

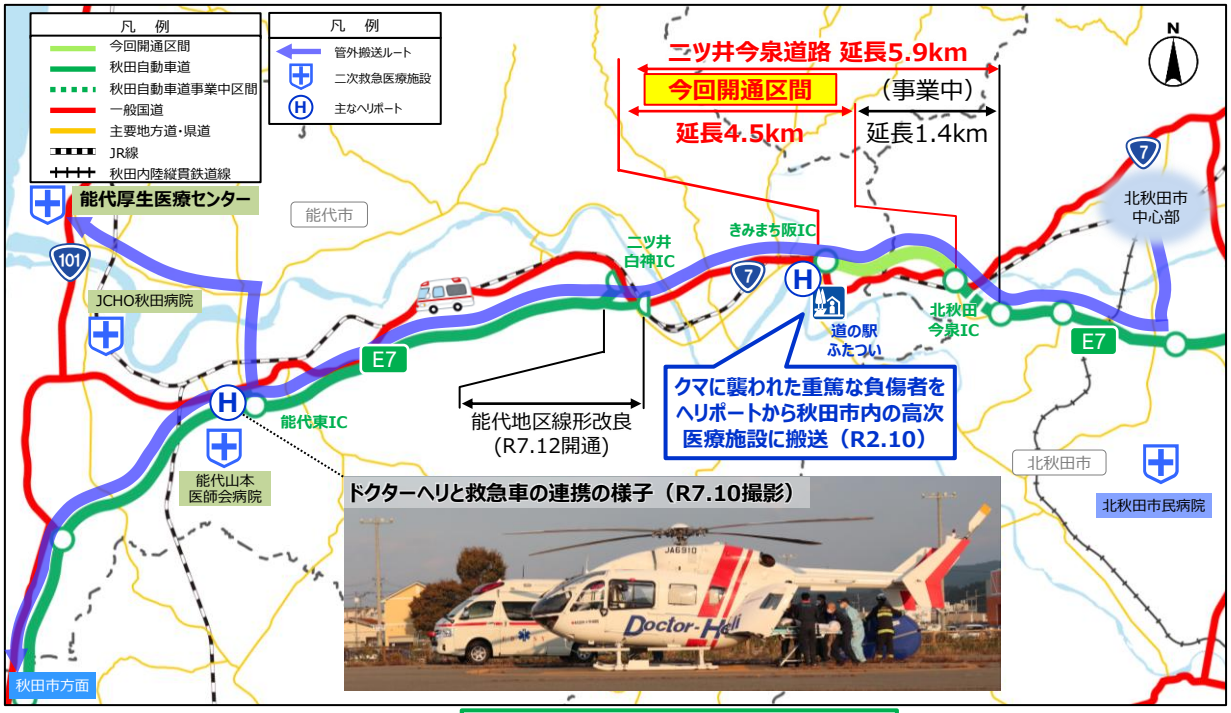
・多数の傷病者発生時では、管内外で相互に応援対応しており、広域連携・防災面でも秋田自動車道の開通による効果は大きい。
（R7.9 北秋田市消防本部ヒアリング結果）

・ダブルネットワークの形成により、秋田自動車道通行止め時も迂回路が確保でき、農産物をより安定して消費者のもとに届けることができる。
（R7.9 農業関係者ヒアリング結果）

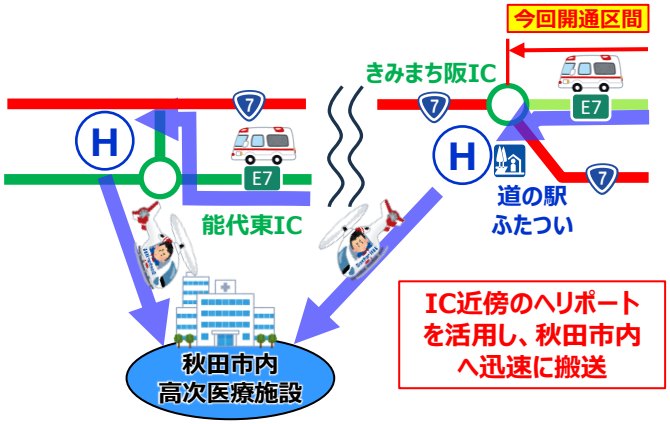
迅速かつ安定した救急搬送を支援

・北秋田市消防本部では、管外搬送件数のうち、約４割が能代・秋田方面の病院へ搬送。特に搬送が多い能代厚生医療センターは、一刻を争う脳疾患の搬送が最多。
・秋田市方面には、状況に応じてIC近傍や道の駅ふたついのヘリポートを活用したドクターヘリと救急車のドッキングにより搬送。
・今回の開通により、時間短縮やドクターヘリとの連携強化が図られ、迅速かつ安定した救急搬送を支援。

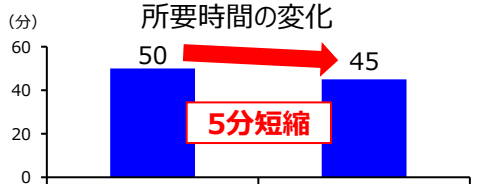
▼北秋田市からの管外搬送ルート・ヘリポートからの搬送事例



▼秋田自動車道とヘリポートを活用した搬送イメージ

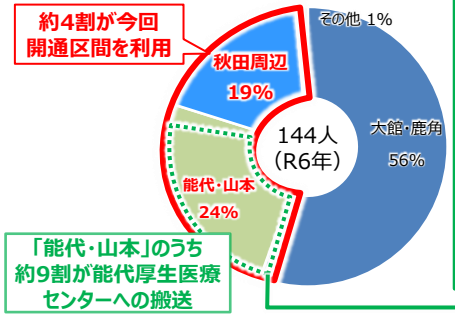


▼北秋田市中心部～能代厚生医療センターの所要時間の変化

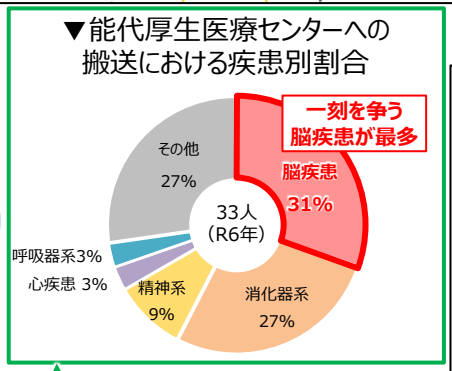


資料：令和3年度全国道路・街路交通情勢調査（混雑時上下平均旅行速度）
※「国道7号利用時」：北秋田今泉IC～能代東ICで国道7号を利用するルート
※「秋田自動車道利用時」：二ツ井今泉道路（今回開通区間）、二ツ井白神IC～能代東IC間で秋田自動車道を利用するルート(二ツ井今泉道路・能代地区線形改良区間は一律70km/hとして算出)

▼北秋田市消防本部の管外搬送先割合



▼能代厚生医療センターへの搬送における疾患別割合



資料：北秋田市消防本部ヒアリング結果（R7.10）

《救急隊員の声》

- 秋田自動車道を利用して、能代・秋田方面への管外搬送を行っている。医療圏が再編され搬送先の選択肢が拡大し、直接搬送することも増えると想定される。
- 救急活動において、より迅速な高次医療施設への搬送は不可欠である。その選択肢として、ドクターヘリとのドッキング、新設ICでのドクターカーとのドッキングも想定される。
- 時間短縮や現道のカーブ区間の回避により、迅速な搬送が可能となり、傷病者や救急隊員への負担軽減に繋がる。

（R7.9 ヒアリング）

